



Title	HUSCAPレター 第23号 : 私の研究 : 寺田龍男 メディア・コミュニケーション研究院・教授 「中世ドイツ文学の発信型研究の試み : 日本文化を出発点として」
Issue Date	2013-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/88206
Type	periodical
File Information	hletter23.pdf



[Instructions for use](#)

北海道大学学術成果コレクション

HUSCAP レター

本学では学生による授業アンケートの評価平均点が上位となった授業担当者を「授業アンケートによるエクセレント・ティーチャーズ」として公表しています。今回は、「ドイツ語Ⅱ」（2011年度）でエクセレント・ティーチャーに選出された寺田先生にお話を伺いました。



私の研究

寺田 龍男

メディア・コミュニケーション研究院教授

北海道大学の機関リポジトリ HUSCAP には日頃大きな恩恵を受けています。機会を与えられましたので、私の事例を紹介させていただきます。

まず、研究に基づくべき授業について述べます。私は HUSCAP に登録されているさまざまな「〇〇論講義ノート」をよく拝見しています。標題では授業アンケートの幸運な評価を紹介していただきましたが、そしてそのこと自体は大きな励みになるのですが、過去のデータはけっしてうれしいものばかりではありません。そんな時は、「講義ノート」が参考になります。専門的なことはもちろんわかりませんが、資料を作成された先生方が知恵をしぼり、努力を重ねていることは伝わってきます。受講者の理解を容易にする工夫だけでなく、体系的な知識を与えてさらなる思考へと促す方法が感得できた時は、「明日からまたがんばろう」という気になり、新たな工夫をこらす力もわいてきます。

HUSCAPの収録文献数が40,000件に達しました！

あなたの論文もHUSCAPで世界に発信しませんか？

論文の電子ファイルを(repo@lib.hokudai.ac.jp)までお送りください！

ただこれだけでは「研究に基づく授業」とはいえないので、もうひとつ例を挙げましょう。大学院（教育学院多元文化教育論講座）の学生や研究生を指導していると、専門外の問題に直面することがしばしばあります。そのような場合、学生といっしょに関連する文献を探すこととなりますが、HUSCAPにキーワードを入力すると必ずといってよいほど何らかのデータが得られます。文献の著者はたいてい本学の関係者なので、読んだ上でさらにご教示をいただきたいとなれば、すぐにお問い合わせすることができます。「研究は足でおこなえ」という古くからの教えがありますが、身近に多様な分野の専門家がいることは大きなメリットです。

同じことは私自身の研究（「中世ドイツ文学の発信型研究の試み」(*1)）にも当然あてはまります。地理的・時間的にはもちろん、文化的にも大きな隔たりのある対象ですが、日本文学で見られる記述や作品の成立・伝承・受容などの諸相を比較すると、興味深い点がいくつも目につくのです。「外面の美しさは内面の美しさのあらわれ」（すなわち美人やイケメンはみな性格が良い）といった観念のレベルから、「話芸を演じた人は報酬として古着を受けとる」など実社会の事象まで、共通・類似する点は少なくありません。それらの事例をテーマ別に集め、対比する作業を進めています。個々の文学史を国や地域ないし文化圏のレベルの枠を超えて、いわゆるグローバル・ヒストリーの中に位置づけ、その上で普遍的な特徴と個別的なものをとらえることが私の目標です。しかしそのためには「これとこれが似ている」と羅列するだけではだめです。相互に影響を及ぼしあっていない世界を比較すると、当然ながら相違点もたくさんあります。それらの研究を自分だけで実証的に進めることは到底できません。そこで多くの方々に教えとご協力をいただいています。本学のHUSCAPは、ネットワークづくりの出発点として欠かせない存在です。

こうした「アジア人研究者」としての仕事と並行して、私は英雄叙事詩における語彙の使用傾向に関する調査（すなわち「伝統的ドイツ文学研究」）を続けていますが、過去に執筆した論文のいくつかに

ついて、HUSCAPで「正誤表」や「訂正版」を掲載していただいたことがあります。

けっして自慢できることではありませんし、本来はそうしなくてよいよう初めから誤りのない原稿を発行機関に提出するべきです。（「北海道大学ドイツ語学文学研究会」と「大学院メディア・コミュニケーション研究院」におわび申し上げます。）しかし「ドイツ人の研究者ならこうした発想にはならないだろう」と励まされて始めた研究で、統計の誤りを放置しては研究自体の信用にかかわります。そこで表を作成し直し、新たな版を公開していただきました。まったく恥ずかしいかぎりですが、複数の親しい研究者から「このようなシステムが構築されている貴学がうらやましい」と言われたことがあります。さらに訂正版を公開したことで、ドイツのある研究グループとの交流関係をさらに強めることもできました。このグループは私が研究対象とする諸作品の校訂版を編纂する作業を進めており、拙論で多少の貢献ができたことを喜んでいます。（「訂正版」のために統計データをすべて検証し、また未発表のものについても膨大な作業を引き受けてくれた本学教育学院学生のみなさんに感謝します。）

末筆ながら、これまでにご教示をいただいたすべての方々と、HUSCAP関係者のみなさまに深くお礼を申し上げたいと思います。

(*1) HUSCAPで論文の詳細を読むことができます。

寺田 龍男
中世ドイツ文学の発信型研究の試み
： 日本文化を出発点として

メディア・コミュニケーション研究
Media and Communication Studies,
61, pp.169-184, 2011
<http://hdl.handle.net/2115/47577>